

仙茅

して日に乾こと三度ほどして、暖地に植るといふ、花鏡の法も是に似たり、水仙は安房國に多し、山にて早く花をひらく、盆に植たるは花咲がたし、地にうへて七月頃根廻を掘て、酒粕馬糞人糞とませ合、多入てよく土を踏つけ、夏中度々水を灌てよし、花鏡云、七月猪屎和泥種、

〔毛吹草〕三 擗津 水仙花分テ常所ニ多シ、桐ノ箱ニ入テ諸方ヘ遣ス、

〔多識編〕二 仙茅、今案也。未知、異名獨茅、開茅、瓜子、同

〔物類品隲〕三 仙茅 和名キンバイザ、先輩キスゲトスルハ大ナル誤ナリ、頌曰、仙茅葉青如茅、而

軟且略潤、面有縦文、又似初生櫻欄秧、高尺許、至冬盡枯、春初乃生、三月有花如梔子花、黃色不結實、其根獨莖而直、大如小指、下有短細根相附、外皮稍粗褐色、内肉黃白色、東璧曰、蘇頌所說詳盡得之、但四五月中抽莖四五寸、開小花深黃色、六出不似卮子、以上兩說キスゲニアラズ、此モノ葉初生ノ櫻欄葉ニ似テ、六瓣ノ深黃花ヲ開ク、大サ五六分許甚可愛、根ハ菖蒲根ノゴトクニシテ、又別ニ小根ヲ附ク、其形略人參ニ似タリ、皆頌ガ說ノゴトシ、但頌不結實ト云モノハ非ナリ、花謝後莖更ニ延ルコト寸餘、莖下豐ニシテ形棗核ノゴトク、内ニ實アリ、熟スレバ迸裂ス、其内白穰アリテ實ヲ包ム、實ハ椒目ノゴトクニシテ稍小ナリ、長崎八郎山産、戊寅歲田村先生始テ是ヲ得タリ、己卯主品中ニ具ス、

〔重修本草綱目啓蒙〕七 仙茅 キンバイザ、 増一名阿輪勒陀本草 阿輪乾陀本草

肆中ニ舶來ノ根多シ、形胡黃連ノ如ニシテ緊實味甘、蒼色黑シ、今キンバイザ、ニ充ル說アリ、ヨク允當セリ、ソノ草ハ北地ニ産セズ、南紀及四國九州地方ニ多シ、葉ハ莖葉ニ似テ短ク、柔軟ニシテ、膚ヲ傷ラズ、長サ數寸或ハ一尺餘、綠色ニ微白毛アリ、一根數葉、夏秋葉間ニ小根ヲ出シ、上ニ黃花ヲ開ク、六出、大サ五六分、ソノ根直生ス、横紋アリ、旁ニ小根ヲ附ルコト、長解ノ說ニ異ナラズ、又舶來ノ者ト同ジ、又一種細葉ナル者アリ、花微シ小ナリ、俱ニ冬ハ苗枯レ、春ニ至リテ舊根ヨリ葉